

## ■ マスクやフェイスシールドの効果 (スーパーコンピュータ[富岳]によるシミュレーション結果)

対策方法	なし	マスク			フェイスシールド	マウスシールド	
		吐き出し飛沫量					
	100%	20%	18-34%	50% <sup>※2</sup>	80%	90% <sup>※2</sup>	
		吸い込み飛沫量					
	100%	30%	55-65 <sup>※2</sup>	60-70 <sup>※2</sup>	小さな飛沫に対しては効果なし (エアロゾルは防げない)		

国立大学法人豊橋技術科学大学 2020年10月15日

### <新型コロナウイルス 職場内クラスターを防ぐ8つのポイント>

1. 予防のための体制
2. マスクの活用
3. 感染リスクが高まる「5つの場面」を避ける
4. 室内を快適な温度に維持しつつ、換気をはかる
5. 手指衛生
6. 在宅勤務や時差出勤
7. 感染者の早期発見と重症化予防
  - 1)健康管理
  - 2)ハイリスク群への配慮
  - 3)都道府県間の移動や海外渡航に関する規定を設ける
8. 職員教育

## <コロナ禍での花粉症>

2021(令和3)年の花粉飛散量は、2020(令和2)年比で全国平均では、160%ほどになるという予想が出ています。中には、200%を超えるような場所もあり、「今年は昨年に比べて花粉の飛散量が多い」と言えそうです(マイナビニュース、2021. 2. 23・7:00配信)。

症状一覧		
	花粉症	新型コロナ
くしゃみ	○	×
鼻水	○	△
鼻づまり	○	△
目のかゆみ	○	×
目やに	○	×
せき	△	○
？ 嗅覚/味覚障害	△	○

※1 結膜炎を1%程度起こすとされています。  
 ※2 新型コロナほどは重篤ではありませんが、20~40%あるとされています。

新型コロナウイルスと花粉症では、どちらも風邪に似た症状が出ることがあります。花粉症でよく見られるくしゃみ・鼻水・鼻づまり・目のかゆみ・目やになどは新型コロナウイルスの主な症状ではないと言えます。

症状の違いを参考にしたうえで、気になる場合は医師に相談しましょう。また、鼻をかむ前に手洗い消毒をするなど感染対策を徹底しましょう。

令和3年の大分県の花粉の状況について	
ポイント1	スギ花粉は2月上旬から飛散予想
ポイント2	花粉飛散量は例年より非常に少ない見込み (ただし令和2年春と同じ程度)

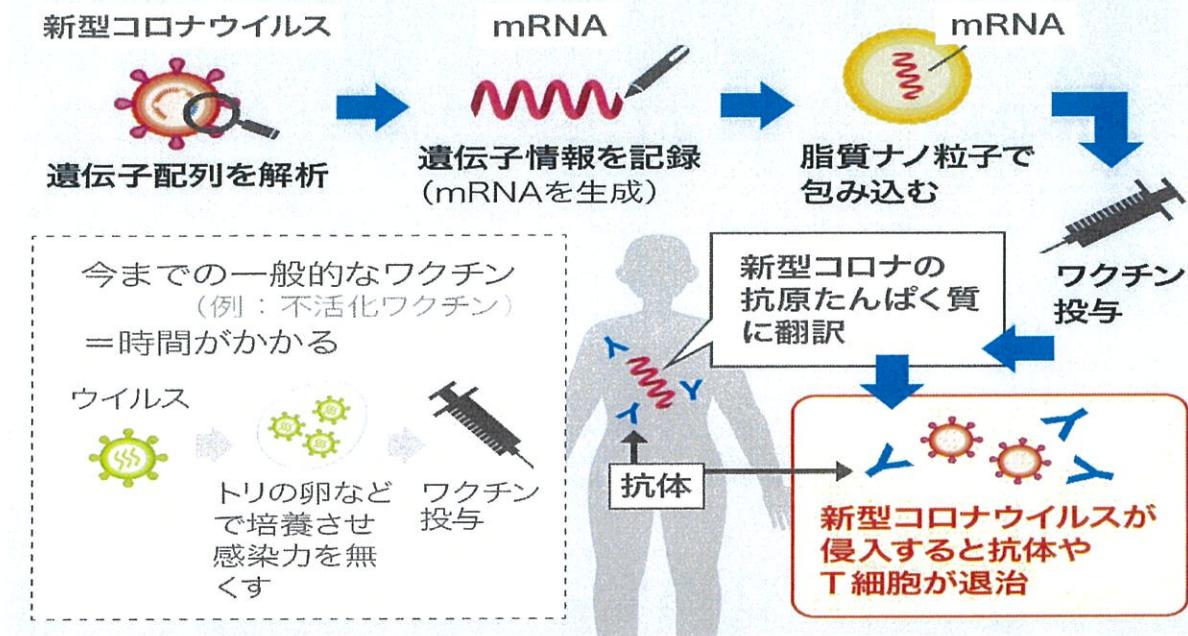


大分県ホームページより

<mRNAワクチン>

## 新型コロナワクチン「mRNAワクチン」の仕組み

新たな技術で開発された新型コロナワクチン=素早く大量生産可能



これまで我が国において使用されていたワクチン(不活化ワクチン、組換えタンパクワクチン、ペプチドワクチン)はウイルスの一部のタンパクを人体に投与し、それに対して免疫が出来る仕組みでした。mRNA(メッセンジャー-RNA)ワクチンでは、ウイルスのタンパク質をつくるもとになる情報の一部を注射します。人の身体の中で、この情報をもとに、ウイルスのタンパク質の一部がつくられ、それに対する抗体などができることで、ウイルスに対する免疫ができます(厚生労働省)。

即ち、ウイルスの遺伝子配列を解析して作ったmRNAを投与すると、体内に抗原タンパク質が生成されます。それを免疫細胞が記憶することで、抗体が新型コロナウイルスの攻撃から守ってくれます。従来のワクチン開発では、本物のウイルスを培養していたため、開発・製造にとても時間がかかりましたが、この仕組みでは、ウイルスの遺伝子情報から“遺伝子の設計図”的なものを作ることで、安全にすばやくワクチンが製造できるようになりました。

なお、ファイザー社とモデルナ社のワクチンは、mRNAワクチンです。

ワクチン接種の間隔						
日	月	火	水	木	金	土
	接種 1回目	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)
(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)
(20)	接種 2回目	3週間を超えたたら できるだけ速やかに接種				

毎日新聞(2021. 2. 22. 18:52配信)

## 新型コロナワクチン接種スケジュール

2月17日～ 3月1日 4月1日 4月12日 それ以降



先行医療  
従事者  
4万人



その他の  
医療従事者  
470万人

接種券の郵送



65歳以上  
高齢者  
3,600万人



基礎疾患の  
ある方、  
高齢者施設  
従業者 など



一般の方

承認済み

ファイザー社製ワクチン  
1億4,400万回分供給予定



対象：16歳以上 料金：無料／全員1人2回接種(3週間隔)が必要です

政府は、16歳以上の方を対象に、新型コロナワクチンの接種計画を明らかにしています。2月17日(水)より先行で、医療従事者4万人に対し1回目のワクチン接種を開始しました。続く医療従事者の接種は3月1日の週より始まります。

また、65歳以上の高齢者3,600万人の接種は、4月12日の週より開始すると発表されました。ただし、供給量に限りがあるため、限定的にスタートし、徐々に拡大していく予定です。その後、基礎疾患がある人や高齢者施設等の従事者を優先して接種する計画です。

高齢者向けワクチン供給の具体的なスケジュールは以下を想定しています。

- ・4月5日の週：5万人の高齢者2回分のワクチンを配達。4月12日の週より接種開始
- ・4月12日の週：25万人の高齢者2回分のワクチンを配達。
- ・4月19日の週：25万人の高齢者2回分のワクチンを配達。
- ・4月26日の週：全国市区町村の高齢者に行きわたるワクチンを配達。

## ◎首相官邸

### 様々な事象の発生頻度

#### 様々な事象の発生頻度（原因に関わらず発生件数の総数）

高齢者の救急車での搬送 (1日あたり)	約3,650人に1人	65歳以上の高齢者の救急搬送件数：年353.9万件 (平成30年 救急・救助の現況)
高齢者の死亡 (1日当たり)	約10,600人に1人	65歳以上の死亡数 約123万人 (平成30年人口動態調査)
交通事故での負傷 (1日当たり)	約87,800人に1人	全国で年間52万5,846人（平成30年） (令和元年交通安全白書)

- 偶然又は他原因により、様々な疾病や死亡といった事象が生じている。
- ワクチン接種後に被接種者に様々な事象が生じた場合、偶発的に、又は他原因で発生したものか、ワクチンによるものかの評価が課題

#### 海外でワクチン接種後に報告された事象の頻度

新型コロナワクチン接種後のアナフィラキシー	10万人～30万人に1人
2020年の韓国でのインフルエンザワクチン接種後の死亡例の報告	約120,000人に1人

#### <ワクチンの副反応と安全性の確認>

一般的にワクチン接種後には、ワクチンが免疫をつけるための反応を起こすため、接種部位の痛み、発熱、頭痛などの「副反応」が生じる可能性があります。治療を要したり、障害が残るほどの副反応は、極めて稀ではあるものの、ゼロではありません。予防接種による健康被害は救済制度の対象です。

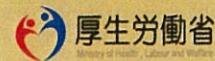
今回新たに承認されたワクチンの国内治験では、ワクチンを2回接種後に、接種部位の痛みは約80%に、37.5度以上の発熱が約33%、疲労・倦怠感が約60%の方に認められています。

ワクチンに含まれる成分に対する急性のアレルギー反応であるアナフィラキシーの発生頻度は、市販後米国で100万人に5人程度と報告されています。日本での接種では、ワクチン接種後15～30分経過を見て、万が一アナフィラキシーが起きても医療従事者が必要な対応を行います。

アナフィラキシーや医師が予防接種との関連を疑う重篤な症状が発生した場合は、法に基づき報告を受け、専門家が評価します。こうした報告の中には、ワクチン接種後の持病悪化・死亡のように、ワクチンとの因果関係が直ちに評価できない事例も含まれますが、幅広く収集し、評価を行うこととしています。また、1～2万人の先行接種者を含め、延べ約300万人の方々について、ワクチン接種後の症状等の調査を予定しています。このように、ワクチンの安全性を継続して確認し、安全性に関する情報を提供していきます。

最後に、新型コロナワクチンを承認し、接種をお勧めするにあたって、国内外の数万人のデータから、発症予防効果などワクチン接種のメリットが、副反応といったデメリットより大きいことを確認しています。国民の皆さまが納得して判断をしていただけるよう、国としても情報提供に努めてまいります。

令和3年2月19日



# 新型コロナワクチンについて 皆さんに知ってほしいこと

～ワクチンに関する情報を、正確に、わかりやすくお伝えします～



## 新型コロナワクチンは、発症を防ぐ効果が認められています。

今回新たに承認された新型コロナワクチンは2回の接種によって、95%の有効性で、発熱やせきなどの症状が出ること(発症)を防ぐ効果が認められています。(※インフルエンザワクチンの有効性は約40~60%)



## 新型コロナワクチンは、あなたご自身のため だけでなく、医療機関の負担を減らすための 重要な手段にもなります。

新型コロナウイルスは、まだ未知のことがあります。このウイルスの感染により、令和3年1月末までに6千人以上の方が亡くなり、3万人以上の方が入院されています。特効薬も開発中の段階です。

こうした中で、多くの方に接種を受けていただくことにより、重症者や死者を減らし、医療機関の負担を減らすことが期待されます。



## どんなワクチンでも、副反応が起こる可能性があります。

一般的にワクチン接種後には、ワクチンが免疫をつけるための反応を起こすため、接種部位の痛み、発熱、頭痛などの「副反応」が生じる可能性があります。治療を要したり、障害が残るほどの副反応は、極めて稀ではあるものの、ゼロではありません。(予防接種による健康被害は救済制度の対象です。)

今回新たに承認されたワクチンの国内治験では、ワクチンを2回接種後に、接種部位の痛みは約80%に、37.5度以上の発熱が約33%、疲労・倦怠感が約60%の方に認められています。

ワクチンに含まれる成分に対する急性のアレルギー反応であるアナフィラキシーの発生頻度は、市販後米国で100万人に5人程度と報告されています。日本での接種では、ワクチン接種後15~30分経過を見て、万が一アナフィラキシーが起きた場合に医療従事者が必要な対応を行います。

掲載の内容は、今後見直される場合があります。

# 新型コロナワクチンについて皆さんに知ってほしいこと

～ワクチンに関する情報を、正確に、わかりやすくお伝えします～



## 新型コロナワクチンの承認後も、 継続的に安全性を確認します。



アナフィラキシーや医師が予防接種との関連を疑う重篤な症状が発生した場合は、法に基づき報告を受け、専門家が評価します。こうした報告の中には、ワクチン接種後の持病悪化・死亡のように、ワクチンとの因果関係が直ちに評価できない事例も含まれますが、幅広く収集し、評価を行うこととしています。

加えて、1~2万人の先行接種者を含め、延べ約300万人の方々について、ワクチン接種後の症状等の調査を予定しています。

このように、ワクチンの安全性を継続して確認し、安全性に関する情報を提供していきます。



## 新型コロナワクチンの接種には、優先順位があります。

全国民に提供できるワクチンの数量を確保することを目指しています。しかしながら、ワクチンの調達が段階的にならざるを得ないことから、まず、重症化リスクの高い方から順に接種することで、重症者や死者を減らすことを優先します。また、新型コロナウイルス感染症患者に対する医療提供体制を守ることも不可欠です。

このため、①新型コロナウイルス感染症患者等に直接医療を提供する医療従事者等、②65歳以上の高齢者、③基礎疾患を有する方や高齢者施設等において利用者に直接接する職員、の順で接種をしていく方針です。その後、16歳以上の方に、順次接種が行われます。



## 新型コロナワクチンは、誰もが全額公費(無料)で受けることができるようになります。

外国人も含め、接種の対象となるすべての住民に全額公費で接種を行う見込みです。接種の時期が近づいたら、市町村から、接種のお知らせや接種券をお送りする予定です。



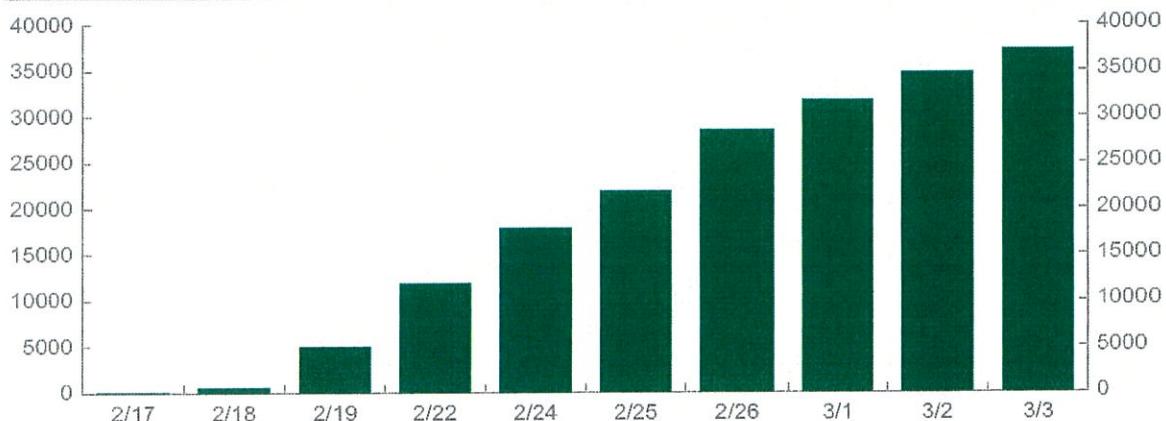
## ワクチンについて、正しく知ったうえで、判断しましょう。

新型コロナワクチンを承認し、接種をお勧めするにあたって、国内外の数万人のデータから、発症予防効果などワクチン接種のメリットが、副反応といったデメリットより大きいことを確認しています。国民の皆さまが納得して判断をしていただけるよう、国としても情報提供に努めてまいります。



◎厚生労働省

国内のワクチン接種実績（累計）



注1:土日祝日の数については、次の平日に合わせて計上しています。注2:各施設が17時時点の実

績を、ワクチン接種円滑化システム(V-SYS)を通して報告したものを集計しています。

(\*) 当該日付までに接種実績のある施設数です。

●ファイザー社ワクチンに関する副反応疑いの報告事例(2月25日17時現在)

報告日	報告のあつた症状	事例数
2021/2/20	皮膚及び口腔内のアレルギー反応(じんましん)	1
2021/2/20	冷感・悪寒戦慄 (*1)	1
2021/2/22	脱力(手足が上がらない)、発熱	1

(\*1) 当初アナフィラキシーとして報告されました但、その後報告者から症状名が訂正された事例です。

●ファイザー社ワクチンに関する死亡報告事例(3月2日現在)

接種日時	発生日時	年代・性別	基礎疾患等	報告者の評価
2021/2/26	2021/3/1	60代・女性	なし	本剤との因果関係は評価不能

<新型コロナワクチンについてのQ&A>(抜粋)

Q: 基礎疾患有する者に当たはまるなどを証明するために、診断書は必要ですか。

⇒診断書等は必要ありません。予診票に記載していただき、必要があるときは、問診で病気や治療の状況などを確認します。

Q: 認知症などで本人に接種意思を確認することができない場合、家族にて同意書を書いてもらっても良いですか。

⇒接種には、ご本人の接種意思の確認が必要です。意思を確認しにくい場合は、ご家族等に協力いただき、ご本人の意思確認をお願いします。なお、ご本人が接種を希望されているものの、何らかの理由でご本人による自署が困難な場合は、ご家族の方等に代筆していただくことは可能です。

Q: ファイザー社のワクチン(コミナティ筋注)は、通常、1回目から3週間後に2回目を受けることになっていますが、どのくらいそれでも大丈夫ですか。

⇒ファイザー社のワクチンは、標準としては、1回目から3週間後(3週間後の同じ曜日)に2回目を受けていただくことになっています。一番早くて19日後(木曜日に1回目の接種を受けた場合、3週間後の火曜日)に接種を受けられますが、それより前には受けることができません。接種間隔が3週間から大きくずれた場合の効果は確かめられていないことから、1回目の接種から3週間を超えた場合、できるだけ早く2回目の接種を受けてください。

Q: 新型コロナワクチンとそれ以外のワクチンは、同時に受けることはできますか。

⇒原則として、新型コロナワクチンとそれ以外のワクチンは、同時に接種できません。新型コロナワクチンとその他のワクチンは、互いに、片方のワクチンを受けてから2週間後に接種できます。(例)4月1日に新型コロナワクチンを接種した場合、他のワクチンを接種できるのは、4月15日(2週間後の同じ曜日の日)以降になります。

Q: 接種するワクチンは選べますか。

⇒接種を受ける時期に供給されているワクチンを接種することになります。また、複数のワクチンが供給されている場合も、2回目の接種では、1回目に接種したワクチンと同じ種類のワクチンを接種する必要があります。

Q: ワクチンを接種した後も、マスクは必要ですか。

⇒ワクチンを受けた方は、新型コロナウイルス感染症の発症を予防できると期待されていますが、ワクチンを受けた方から他人への感染をどの程度予防できるかはまだ分かっていません。また、ワクチン接種が徐々に進んでいく段階では、すぐに多くの方が予防接種を受けられるわけではなく、ワクチンを受けた方も受けていない方も、共に社会生活を営んでいくことになります。このため、引き続き、皆さんに感染予防対策を継続していただくようお願いします。具体的には、「3つの密」(密集・密接・密閉)の回避、マスクの着用、石けんによる手洗いや手指消毒用アルコールによる消毒の励行などをお願いします。

## 新型コロナウイルス感染症に係る臨時の予防接種実施要領

### 第1 総論

予防接種台帳、対象者への周知、接種の場所、予防接種実施計画、対象者の確認、副反応等に関する説明及び同意、医療機関以外で接種を行う場合の注意事項等については「新型コロナウイルス感染症に係る予防接種の実施に関する手引き」本文においてその取り扱いを記載しており、参照の上、新型コロナウイルス感染症に係る臨時の予防接種（以下「本予防接種」という。）の実施に遺漏のないよう適切に対応すること。

### 第2 本予防接種の実施

#### 1 基本的事項

##### (1) 対象者

市町村長は、当該市町村に居住する 16 歳以上の者に対して、本予防接種を実施すること。

なお、戸籍及び住民票に記載のない 16 歳以上の者のうち、当該市町村に居住していることが明らかなもの及びこれに準ずるものについても対象者に含まれること。

また、「16 歳以上」については、誕生日の前日（24 時）に 1 歳年をとると考えるため、例えば、平成 17 年（2005 年）7 月 30 日生まれの者は令和 3 年（2021 年）7 月 29 日に 16 歳以上となり本予防接種の対象者となるものであること（参考：令和 2 年 2 月 4 日厚生労働省健康局健康課予防接種室事務連絡「定期の予防接種における対象者の解釈について（事務連絡）」）。

##### (2) 実施期間

本予防接種は令和 3 年 2 月 17 日から令和 4 年 2 月 28 日までの間において行うものであること。

なお、重症化リスクの大きさ、医療提供体制の確保等を踏まえ、まずは医療従事者等への接種、次に高齢者、その次に高齢者以外で基礎疾患有する者、高齢者施設等の従事者への接種をできるようにし、その後、それ以外の者に対し、ワクチンの供給量等を踏まえ順次接種をできるようにすること。

##### (3) 接種を受ける努力義務の取扱いについて

本予防接種については、予防接種法（昭和 23 年法律第 68 号。以下「法」という。）附則第 7 条第 2 項の規定により同法第 6 条第 1 項の臨時接種とみなして実施するものであり、市町村長は対象者に対して接種勧奨をすることとされていること。

また、対象者については原則として接種を受ける努力義務の規定が適用されるが、妊娠中の者については使用実績が限定的であること等を踏まえ、努力義務の規定の適用が除外されていること。

なお、予診の際は、本予防接種の有効性・安全性、本予防接種後の通常起こりうる副反応及びまれに生じる重い副反応並びに予防接種健康被害救済制度について、対象

者又はその保護者がその内容を理解し得るよう適切な説明を行い、本予防接種の実施に関して文書により同意を得た場合に限り接種を行うものとすること。

#### (4) 予防接種不適当者及び予防接種要注意者について

##### ①予防接種不適当者

予診の結果、異常が認められ、以下の接種不適当者に該当する疑いのある者と判断される者に対しては、当日は接種を行わず、必要があるときは、精密検査を受けるよう指示すること。

- (ア) 新型コロナウイルス感染症に係る他の予防接種を受けたことのある者で本予防接種を行う必要がないと認められるもの
- (イ) 明らかな発熱を呈している者
- (ウ) 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな者
- (エ) 本予防接種の接種液の成分によってアナフィラキシーを呈したことがあることが明らかな者
- (オ) 上記に該当する者のほか、予防接種を行うことが不適当な状態にある者

##### ②予防接種要注意者

本予防接種の判断を行うに際して注意を要する以下の者については、被接種者の健康状態及び体質を勘案し、慎重に予防接種の適否を判断するとともに、説明に基づく同意を確実に得ること。また、接種を行うことができるか否か疑義がある場合は、慎重な判断を行うため、予防接種に関する相談に応じ、専門性の高い医療機関を紹介する等の対応をとること。なお、基礎疾患を有する者等については十分な予診を行い、基礎疾患の状況が悪化している場合や全身状態が悪い者等については、接種の延期も含め、特に慎重に予防接種の適否を判断する必要があること。

- (ア) 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害等の基礎疾患有する者
- (イ) 予防接種で接種後2日以内に発熱のみられた者及び全身性発疹等のアレルギーを疑う症状を呈したことがある者
- (ウ) 過去にけいれんの既往のある者
- (エ) 過去に免疫不全の診断がされている者及び近親者に先天性免疫不全症の者がいる者
- (オ) 接種しようとする接種液の成分に対してアレルギーを呈するおそれのある者
- (カ) バイアルのゴム栓に乾燥天然ゴム（ラテックス）が含まれている製剤を使用する際の、ラテックス過敏症のある者

#### (5) 接種液の貯蔵・使用

接種液の貯蔵は、生物学的製剤基準の定めるところによるほか、所定の温度が保たれていることを温度計によって確認できる冷凍庫、冷蔵庫等を使用する方法によること。

接種液の使用に当たっては、標示された接種液の種類、有効期限内であること及び

異常な混濁、着色、異物の混入その他の異常がない旨を確認すること。

#### (6) 接種時の注意

① 予防接種を行うに当たっては、次に掲げる事項を遵守すること。

(ア) 予防接種に従事する者は、手指を消毒すること。

(イ) ワクチンによって、凍結・再凍結させないこと、溶解は接種の一定時間前に行い一度溶解したものは直ちに使用すること、溶解の前後にかかわらず光が当たらないよう注意することなどの留意事項があるので、それぞれ添付文書を確認の上、適切に使用すること。

(ウ) 接種液の使用に当たっては、有効期限内のものを均質にして使用すること。

(エ) バイアル入りの接種液は、栓及びその周囲をアルコール消毒した後、栓を取り外さないで吸引すること。

(オ) 接種液が入っているアンプルを開口するときは、開口する部分をあらかじめアルコール消毒すること。

(カ) 接種用具等の消毒は、適切に行うこと。

② 被接種者及び保護者に対して、次に掲げる事項を要請すること。

(ア) 接種後は、接種部位を清潔に保ち、接種当日は過激な運動を避けるよう注意し、又は注意させること。

(イ) 接種後、接種局所の異常反応や体調の変化を訴える場合は、速やかに医師の診察を受け、又は受けさせること。

(ウ) 被接種者又は保護者は、(イ) の場合において、被接種者が医師の診察を受けたときは、速やかに当該予防接種を行った市町村（特別区を含む。以下同じ。）の担当部局に連絡すること。

#### ③ 女性に対する接種の注意事項

妊娠中又は妊娠している可能性がある場合には本予防接種の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ接種すること。

#### (7) 接種費用の不徴収

本予防接種は、法第 28 条の規定による実費の徴収の対象外となっており、接種に要する費用は被接種者又はその保護者から徴収することができないこと。

#### (8) 副反応疑い報告

法の規定による副反応疑い報告については「定期の予防接種等による副反応疑いの報告等の取扱いについて」（平成 25 年 3 月 30 日付け健発 0330 第 3 号・薬食発 0330 第 1 号厚生労働省健康局長・医薬食品局長連名通知）を参照すること。

## 2 各論

#### (1) コロナウイルス修飾ウリジン RNAワクチン（SARS-CoV-2）（ファイザ

一株式会社が令和3年2月14日に医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性に関する法律第14条の承認を受けたものに限る。以下「ファイザー社コロナウイルス修飾ウリジンRNAワクチン（SARS-CoV-2）」という。）

ファイザー社コロナウイルス修飾ウリジンRNAワクチン（SARS-CoV-2）の接種は、以下の方法により行うこととすること。

なお、①（4）②予防接種要注意者の（ア）に関し、抗凝固療法を受けている者、血小板減少症又は凝固障害を有する者については、接種後に出血又は挫傷があらわれることがあり、接種要注意者に該当すること。

#### ①接種量等

1.8ミリリットルの生理食塩液で希釈したファイザー社コロナウイルス修飾ウリジンRNAワクチン（SARS-CoV-2）を2回筋肉内に注射するものとし、接種量は、毎回0.3ミリリットルとすること。

ファイザー社コロナウイルス修飾ウリジンRNAワクチン（SARS-CoV-2）と他の新型コロナウイルスワクチンの互換性に関する安全性、免疫原性及び有効性に関するデータはないことから、同一の者には、同一のワクチンを使用すること。

#### ②接種間隔

18日以上の間隔をおいて、標準的には20日の間隔をおいて2回接種することとし、1回目の接種から間隔が20日を超えた場合はできるだけ速やかに2回目の接種を実施すること。

前後に他の予防接種を行う場合においては、原則として13日以上の間隔をおくこととし、他の予防接種を同時に同一の接種対象者に対して行わないこと。

#### ③接種箇所

通常、三角筋に筋肉内接種すること。静脈内、皮内、皮下への接種は行わないこと。

#### ④接種後の経過観察

接種後にアナフィラキシーを呈することがあるため、接種後少なくとも15分間は被接種者の状態を観察する必要があること。また、過去にアナフィラキシーを含む重いアレルギー症状を引き起こしたことがある者については、接種後30分程度、状態の観察をする必要があること。

接種後に血管迷走神経反射として失神があらわれることがあるため、過去に採血等で気分が悪くなったり、失神等を起こしたことがある者については、接種後30分程度、体重を預けられるような場所で座らせるなどした上で、なるべく立ち上がりないように指導し、被接種者の状態を観察する必要があること。なお、予診の結果等から血管迷走神経反射による失神が生じる可能性が高いと考えられる者については、ベッド等に横たわらせて接種するといった予防策も考えられること。